

授業科目名	看護学概論	必修・選択の別	必修
担当者氏名	上野玲子	開講期	1年前期
		単位数	2

【授業の主題と目標】

看護学概論は、introduction to nursingに相当する科目であり、これから学んでいく多くの看護学の基礎として、看護と看護学の概要を理解するものである。専門職としての看護と看護学とは何かを理解し、看護学全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を認識できるようにする。

【授業計画・内容】

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 第 1～2 回 | 歴史にみる看護の誕生と発展 |
| 第 3～4 回 | 看護とは何か、看護学とは何か |
| 第 5 回 | 看護の対象と環境 |
| 第 6 回 | 健康と看護 |
| 第 7 回 | 保健医療システムと看護 |
| 第 8～9 回 | 看護の機能と業務 |
| 第 10～11 回 | 現代看護における主な看護理論 |
| 第 12～13 回 | 看護活動・看護管理・看護倫理 |
| 第 14 回 | 保健医療・看護における国際化と展望・まとめ |
| 第 15 回 | テスト |

【授業形態】

講義

【教科書】

松木光子編：基礎看護学－看護学概論、3版、3刷、ニューヴェルヒロカワ、2006.

【参考文献】

1. 藤崎郁、他：基礎看護学 [1]－看護学概論、14版、医学書院、2006.
2. 佐藤登美編：基礎看護学①－看護学概論、1版、メヂカルフレンド社、2003.
2. 川村佐和子、他編：基礎看護学－看護学概論、1版、メディカ出版、2004.
3. 沢禮子編：基礎看護学1－看護学概論、2版、11刷、金原出版、2000.

【成績評価方法】

試験成績、レポート、出席状況等

【学生へのメッセージ】

看護学概論は、これから学んでいく多くの看護学の基礎的理解と展望を導くための科目です。理解しにくい部分もあるかと思いますが、がんばって学習していきましょう。

授業科目名	カウンセリング	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	成 田 猛	開講期	2年前期
		単位数	2

【授業の主題と目標】

カウンセリングの技法は、今日、対人援助職に就こうと考えている人であれば、誰もが修得しておかなければならない技法となりつつある。ここでは、臨床の現場で広く用いられている非指示的カウンセリング（来談者中心療法）の技法に焦点をあて、他の技法と比較しながら学習する。受講者は、この技術を身につけることにより、相手の内的世界が鮮明になることを実感できるようになる。

【授業計画・内容】

- | | |
|--------|-----------------|
| 第 1 回 | カウンセリング |
| 第 2 回 | 指示的カウンセリング (1) |
| 第 3 回 | 指示的カウンセリング (2) |
| 第 4 回 | 非指示的カウンセリング (1) |
| 第 5 回 | 非指示的カウンセリング (2) |
| 第 6 回 | 非指示的カウンセリング (3) |
| 第 7 回 | 非指示的カウンセリング (4) |
| 第 8 回 | 非指示的カウンセリング (5) |
| 第 9 回 | 非指示的カウンセリング (6) |
| 第 10 回 | 非指示的カウンセリング (7) |
| 第 11 回 | 非指示的カウンセリング (8) |
| 第 12 回 | 折衷的カウンセリング (1) |
| 第 13 回 | 折衷的カウンセリング (2) |
| 第 14 回 | 折衷的カウンセリング (3) |
| 第 15 回 | テスト |

【授業形態】

講義

【教科書等】

内山喜久雄、高野清純、田畑 治編 カウンセリング 日本文化科学社、2000、プリント他等。

【成績評価方法】

試験による評価。出席日数が不足した場合には、学校側が定めた事項に準拠して対応する。

【学生へのメッセージ】

人間を理解しようとする時、相手の話を聴くという態度はとても大切である。この技術は、受講生の対人関係を円滑なものにしていくと考えられる。

授業科目名	障害者福祉論 I		必修・選択の別	必修	
担当者氏名	柴田 博	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

社会生活していく上で生じる様々な障害を国際生活機能分類の考え方で学び、日本における生活上の障害をもつ人々との実態と国際的な比較について学習する。また、ノーマライゼーション、リハビリテーション、共生社会の基盤となる人権思想に裏打ちされた障害者の福祉施策サービス体系について学び、総合的に考察できる基礎を身につける。

【授業計画と内容】

- | | |
|--------|-------------------------|
| 第 1 回 | 障害者福祉とは何か、ノーマライゼーションの実現 |
| 第 2 回 | リハビリテーションの追及、自立生活とQOL |
| 第 3 回 | 障害の概念、法的定義と手帳制度 |
| 第 4 回 | 障害者の実態 |
| 第 5 回 | 障害者福祉の国際的動向 |
| 第 6 回 | 日本の障害者福祉の動向、障害者自立支援法 |
| 第 7 回 | 障害者施策の体系、障害者基本法 |
| 第 8 回 | 障害者基本計画、市町村・都道府県障害者計画 |
| 第 9 回 | 障害者福祉のサービス体系、法と行政 |
| 第 10 回 | 身体障害者の福祉サービス |
| 第 11 回 | 障害児の福祉サービス |
| 第 12 回 | 知的障害者の福祉サービス |
| 第 13 回 | 精神障害者の福祉サービス、難病者の福祉サービス |
| 第 14 回 | 介護保険と障害者サービス |
| 第 15 回 | テスト |

【授業形態】

講義

【教科書等】

福祉士養成講座編集委員会編集『障害者福祉論』中央法規

【参考文献】

中西正司、上野千鶴子『当事者主権』岩波書店、必要時に資料配布

【成績評価方法】

出席状況、試験成績等による総合判定

【学生へのメッセージ】

「障害」を社会生活・環境との関わりでとらえよう

授業科目名	社会調査論		必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	石 川 雅 典	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

社会調査とは、私たち一人ひとりの個人的見聞を超えた認識をもたらす情報収集活動です。現代社会では数多くの社会調査が実施されていますが、実施の仕方や調査の内容において質的な問題を抱えた調査が散見され、正しい社会調査の実施に対する社会的期待はこれまでになく高まる風潮にあります。本講義では、社会調査の基本的考え方や歴史的意義、調査のプロセスと留意点などを学ぶことを通じ、日常生活の中で接する各種の社会調査の結果を読み解く力や調査実施の力量の向上を目指します。

【授業計画・内容】

第 1 回	社会調査とは何か
第 2 回	現代社会と社会調査
第 3 回	社会科学の方法としての社会調査
第 4 回	社会調査の系譜 1 (センサスとソーシャル・サーベイ)
第 5 回	社会調査の系譜 2 (パブリック・オピニオン/マーケティング・リサーチと学術調査)
第 6 回	社会調査の企画・設計 1 (社会調査のプロセスと問題設定)
第 7 回	社会調査の企画・設計 2 (社会調査の種類と方法)
第 8 回	社会調査の企画・設計 3 (標本抽出の原理と方法)
第 9 回	社会調査の企画・設計 4 (ワーディングと質問文作成)
第 10 回	質的調査の特徴
第 11 回	調査結果の集計・分析 1 (数字の性質とコーディング)
第 12 回	調査結果の集計・分析 2 (集計技法)
第 13 回	調査結果の集計・分析 3 (統計的検定)
第 14 回	社会調査の認識と倫理
第 15 回	テスト

【授業形態】

講義

【教科書等】

特に指定しない

【参考文献】

大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ—倫理と方法— (第2版)』(ミネルヴァ書房、2005年)。その他適宜講義中に指示します。

【成績評価方法】

前期半ばに実施する中間テストと前期定期試験により評価

【学生へのメッセージ】

履修者は、新聞記事等を通じて普段から社会で生じている出来事とその変化について関心を向ける習慣をつけてほしいと思います。